

船舶事故等調査報告書

平成23年1月27日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第189号	
事故等種類	衝突（海中の障害物）	
発生日時	平成22年8月20日 11時00分ごろ	
発生場所	千葉県千葉市千葉港第3区 千葉港丸紅シーバース灯から257°510m付近 (概位 北緯35°35.7′ 東経140°04.4′)	
事故等調査の経過	平成22年9月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等</p> <p>油タンカー <sup>にっしょう</sup>日章丸、3,403トン 141075、朝日海運株式会社及び独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構</p>	
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	船尾部及び舵底部に塗装剥離、プロペラに擦過傷	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか10人が乗り組み、千葉港第3区内を千葉港頭石油ターミナル4号棧橋に向け、機関を停止して約2～3ノットの前進いきあしで東北東進中、平成22年8月20日11時00分ごろ、船尾船底部に軽い衝撃を受けた。</p> <p>船長は、すぐに二重底タンク、燃料タンク及び機関室内の点検を行ったが異常を認めなかった。</p> <p>本船は、同年9月6日に上架し、船底外板などの点検を実施したところ、プロペラの擦過傷などを発見した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：潮高 約96cm、潮汐 上げ潮の末期</p>	
その他の事項	<p>本船の喫水は、本事故発生当時、船首約4.10m、船尾約6.30mであった。</p> <p>本船が船底に衝撃を受けた場所付近の海図（W1086）記載の水深は、9.2mであった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、千葉港第3区において航行中、海中の障害物に接触した可能性があると考えられるが、その障害物については、明らかにすることができなかった。</p>
原因	本事故は、本船が、千葉港第3区において航行中、海中に障害物が存在したため、同障害物と接触したことにより発生した可能性があると考えられる。	